

第 2 回総会の報告

(5月30日開催、43名参加)

議長・守随吾朗さん、司会・針谷正紀さん

議事 (議事はすべて承認される)

1. 活動のまとめと会計報告・会計監査
2. 今後の方針と予算について
(部会報告を含む)
3. 2011年度役員について

1. についての質疑応答・意見

質問: 53名の会費未納があるというが、どのように徴収しているか。**応答:** 77%の徴収率は全国的に高いらしい、会計の丸山さんがきちんと統計をだし、未納者の整理をした結果この数字がある。長期未納者に対する努力もしているが、億劫がらずにさらなる努力をしたい。**意見:** 77%でよいということではない。お金がないと活動ができないのできちんと徴収すべき。拡大にも努力を。

2. についての意見

船橋: 会員でよかったことを一つ。昨年10月に開催された「貧困問題シンポ」に卒業生二人(双子姉妹)を連れて、パネリストとして参加した。そこで双子姉妹の一人と倉林さんとの出会いがあり、その後フォーラムの勉強会に彼女が参加し、倉林さんの世話になり高看受験の準備ができた。また単に勉強だけでなく、私以外に相談できる大人が増えてよかった。こうしたニーズは結構あると思う。

■ 討 議 ■

針谷: フォーラムニュース8号で紹介された「卓球ベテラン会」は、大会で大震災カンパを募り、上毛新聞を通じて16万円を送金。しかし赤十字社のフットワークが悪く、迅速に被災地に届かない。その後他の大会で現地の人からの要請で防御フェンスを15枚送ったが、すぐにお礼の電話があった。要はフッ

トワーク。フォーラムも全国教育研究交流集会在中止になった直後、吾妻へ避難している南相馬市民に取材、このフットワークのよさは評価すべき。(この後カンパの即効性をめぐって意見あり)。**小池:** 樹徳高校では第1陣40名が、宮城へ震災支援に入った。私もボランティア部の顧問なので、これを機に樹徳とつながりをもてればと思う。**中東**(高教組書記長): 色々な教育問題、授業料問題、教育実践などあったが、フォーラムに発信できなかった。今後発信したい。**萩原**(高教組教文部長): 昨年度の「ぐんま教育のつどい」で松井田高校の報告ができたのは、フォーラムのお陰。今年度は「特別支援」を全体会のテーマにし、一人一人の生徒に目を配った、個別の学力支援を問題提起したい。また、地元群馬からの発信をしたい。**伊藤**(県議): 震災と原発が日本のあり様を変えた。全商連の要望は被災者の生活再建、地域のクリーンエネルギー再生、一方財界は構造改革・TPP、新しい発展・成長という要望を出した。このように、今は反動と進歩の側の綱引きだ。教育のことも勉強させてもらいたい。**加藤:** 元小学校教師・飯塚さんは、子どもに自由に作文を書かせそれを学級通信に載せ、子どもを丸ごと受けとめ、それを親とも共有してきた。現在も当時のクラスの母親が集まっている。この実践を6月の公開シンポで聞いて欲しい。また、伊勢崎の多言語教育研究所からの要請で発言。伊勢崎にはペルー、ブラジルの子が多く、日本の教育システムの中でいじめもあるが、国籍・人種に関係なく平等に生活して、人間として高まってゆこうという実践をしている学校もある。

最後に**議長の守随**さんから、方針を深めるためには、部会の活動が重要だが、もっと構造的に考え統合的な論議をすべき。という発言があった。<文責: 平井 敏久>